

菅谷たたら山内

菅谷たたら山内はかつて鉄職人の集落だった。ここでは、職人たちが伝統的な土のたたら炉を使って砂鉄を錬り、3〜4日かけて高品質の鉄を作り出した。製鉄は18世紀から20世紀にかけて、130年近くもこの地で行われていた。現在、この集落には現存する日本唯一の製鉄工場（高殿）があり、かつて職人たちが鉄や鋼を製錬していた。番頭と村下は重要な高殿の近くに住み、労働者の大半は川を挟んで東側にある長屋に住んでいた。

このような製鉄工場は、砂鉄や木炭が採れやすい山間部に設けられることが多かった。菅谷製鉄所は1751年に田部家によって創業された。最盛期の一つでもある1826年から1839年にかけては、年間80回から90回の操業で約200から300トンの鉄鋼を生産した。

高殿と現存するいくつかの建物は、1967年に重要有形民俗文化財に指定された。今はのどかで静かな山里だが、ハンマーの音と炉の轟音で空気が満たされていた時代を思い起こさせる。